

相 撲 専 門 部

1 設立年月日

専門部としての取り組みで、組織設立に向けて活動を展開している。

2 活動の経緯

浦添市体育協会相撲専門部が組織的に活動したのは、昭和63年の第1回わんぱく相撲浦添大会（浦添青年会議所主催）のころからである。これまでは、知名弘氏（県相撲連盟副会長、相撲専門部長）が中心になり活動していたが、組織的な活動には到らなかった。そのような中、毎年開催されるわんぱく相撲や、浦添市てだこ祭りの企画事業の一環として開催される全島ちびっ子相撲大会等により、専門部としての活動が盛んになった。現在、県相撲連盟関係者の指導等も仰ぎながら、専門部として活動している。

3 歴代役員

初代専門部長 知名 弘(平成13年度まで)
2代 “ 幸地 剛(平成14年度～)
事務局 大城安司

4 主な事業

(1) わんぱく相撲大会

児童生徒の相撲熱が高まった要因の一つに、浦添青年会議所主催のわんぱく相撲大会がある。市内の小学校を対象に毎年6月に開催し、4・5・6年の優勝者は、7月に東京の国技館で開催される「わんぱく相撲全国大会」に派遣している。その大会には全国の50,000人余りの予選を勝ち抜いてきた精鋭たちの試合は、大相撲に負けない熱気あふれる試合である。応援席の家族にも力が入り、沖縄の大会には見られない応援光景である。

宿泊場所は各相撲部屋が割り当てられ、そこでの食事はちゃんこ鍋である。選手にとっては、一生に残る思い出になると思う。選手の中には

将来の大関や横綱になる人がいるかもしれない。



（浦添わんぱく相撲大会、4～6年生の個人戦優勝者は東京蔵前国技館に出場する資格を得る。浦添青年会議所主管）

(2) 全島ちびっ子相撲大会

全島ちびっ子相撲大会の4年、5年、6年の優勝者は九州大会へ派遣されている。

平成14年(2002年)は、4年生の山本浩太君(前田小) 6年生の仲松亮喬君(奥武山クラブ)が九州大会において上位入賞を果たし全国大会へ出場した。



（全島ちびっ子相撲大会開会式風景、恒例の浦添てだこ祭りでのスポーツイベントにもなっている。）

(3) 沖縄県中学校相撲大会

今年度の県中学校相撲大会の団体戦で、常勝伊江中学校の連覇を阻止し、神森中学校（大城一幸・幸地銀次・饒平名貴洋）大金星を上げ、個人戦でも仲西中学校2年生の古波蔵大輔が見事に個人優勝を飾った。（その後の琴椿杯でも神森中団体優勝、仲西中学校古波蔵大輔個人優勝）

この好成績の要因の1つに仲宗根広氏の指導が上げられる。

以上のような体験等を積み重ね、児童生徒の相撲の力は着実に向上している。

(4) 県民体育大会

昭和59年(1984年)第37回大会より、本大会に参加。平成9年までの成績は、6位、7位、8位の順位であったが、平成10年度(1998年)から競技力も向上し、平成13年度(2001年)、平成14年度(2002年)の連続3位を含む上位入賞を果たすことができた。



県民体育大会で頑張る浦添代表選手



県民体育大会で代表選手を指導する知名弘相撲監督(写真中央)

4 今後の課題と展望

市内小中高生への指導者確保及び育成は急務である。また、練習土俵及び競技用土俵の設置が運動公園内に確保できれば大会を通して日本の国技である相撲競技を紹介していきたい。その施設を充実させることにより県内外の大会等も誘致、競技人口の増及び競技力向上につながるものと考える。



関取の智の花(上写真中央)を迎えてちびっ子相撲教室が沖縄電力の構内で開催された。当時の宮城清次郎会長の開会式時の激励風景

沖縄県民体育大会における浦添市選手団の成績

相撲競技（昭和34年～）

浦添市 昭和59年～

回	年	元号	市成績	回	年	元号	市成績
26	1973	昭和48	不参加	41	1989	平成元	3
27	1974	昭和49	〃	42	1990	平成2	3
28	1975	昭和50	〃	43	1991	平成3	2
29	1976	昭和51	〃	44	1992	平成4	1
30	1977	昭和52	〃	45	1993	平成5	4
31	1978	昭和53	〃	46	1994	平成6	2
32	1979	昭和54	〃	47	1995	平成7	2
33	1980	昭和55	〃	48	1996	平成8	4
34	1981	昭和56	〃	49	1997	平成9	2
35	1982	昭和57	〃	50	1998	平成10	7
36	1983	昭和58	〃	51	1999	平成11	5
37	1984	昭和59	3	52	2000	平成12	4
38	1985	昭和60	1	53	2001	平成13	7
39	1986	昭和61	3	54	2002	平成14	7
40	1988	昭和63	4	55			

